

〔中学校社会科副読本〕

## 学習の手引き 郷土砺波

解答例

### LET'S WORK 1 (P5)

(解答) 右の図を参照のこと。

### LET'S WORK 2 (P6)

(解答例) 出町

21 地区の中で人口、世帯数ともに最も多い。JR 砺波駅周辺の商店街や郊外の大型ショッピングセンターなど商業が発達し、市街地が広がっている。毎年、チューリップ公園を中心に開催されるチューリップフェアには県内外や海外からの観光客も多く、観光地として有名である。また、伝統的な祭りの継承にも力が入られ、平成 21 年には出町子供歌舞伎曳山会館が開館した。

### LET'S WORK 3 (P7)

(解答) ①ソウル、大連、ウラジオストク ②略

### LET'S WORK 4 (P8)

(解答) ①略 ②砺波市の気候が浜松の気候と大きく異なる点は、冬の降水量が多い点である。これは冬の湿った季節風が日本海から吹きつけ、山地にぶつかり日本海側の北陸地方に多くの雪や雨などを降らせるからである。これに対し、山地をへだてた東海地方には乾いた空気が流れ込み、冬でも晴れの日が多い。

### LET'S WORK 5 (P9)

(解答) 加賀藩は瑞龍寺や高岡町、砺波平野を水害から守るため、1670 年(寛文 10) から千保川をはじめ、今まで西に流れていた何本もの川を締め切って東へ移し、一本化する工事を始めた。堤防は長さ 2km にもわたり、45 年の歳月と労力を費やして、1714 年(正徳 4) に完成した。その後も補強工事が続けられ、堤防の根固めのために松の木が数百本植えられたことから「松川除(まつかわよけ・まつがいけ)」と呼ばれるようになった。

※川除=堤防のこと

### LET'S WORK 6 (P10)

(解答) 略

### LET'S WORK 7 (P11)

(解答) A. ⑤ゆず B. ②大門そうめん C. ③チューリップ球根

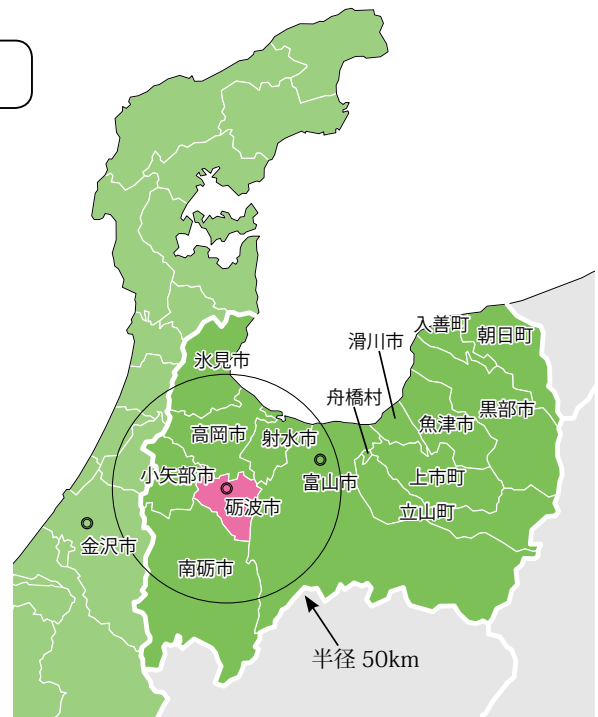
D. ③三助焼 E. ④挽物木地 F. ⑦里いも

### LET'S WORK 8 (P14)

(解答) 松原遺跡は縄文時代中期の遺跡だが、この時期は 1 万年以上続く縄文時代の中でもっとも遺跡数が多く、人口が増加した時代である。松原遺跡から土器が多量に出土するのは人口増との関連が考えられる。また、松原遺跡の土器は量もさることながら、完形の土器が多い。これは集団移住か疫病などにより集落が壊滅的打撃を受けて、土器が残された可能性が考えられる。

### LET'S WORK 9 (P15)

(解答) 打製石斧は縄文時代においてもっとも普遍的に使用された石器である。この石器は土の耕起や穴掘りとして使われたが、久泉遺跡ではヤマイモやユリなどの根茎類の植物を採集するために使われたとみられる。遺跡から無数の穴が発掘されたからである。おそらく打製石斧には木製の柄を装着せずに、シャベルのよ



うに手で持って使用したと考えられる。

### LET'S WORK 10 (P16)

(解答) 石粟荘、伊加流伎(伊加留岐村)、井山荘があったとされる現在の庄東地区の平野部には、荘園が作られる 8 世紀中頃より古い遺跡が少ない。つまり、それ以前にはほとんど開発の手が及んでいなかったことを示している。荘園が作られた背景には、庄東地区が未開の地であったことが大きな要因と考えられる。また、この土地は低い段丘であるため、庄川による洪水の影響が少ないことも選地の理由のひとつと考えられる。

### LET'S WORK 11 (P33)

(解答) 略

### LET'S WORK 12 (P34)

(解答) 歳入 ①市税 ②地方交付税 ③国・県支出金

歳出 ①民生費 ②公債費 ③衛生費

### LET'S WORK 13 (P35)

(解答) 略

### LET'S WORK 14 (P36)

(解答) 高齢化が少しずつ進んではいるが、県内の他の市町村と比べると低い水準である。

### LET'S WORK 15 (P37)

(解答) ①略 ②略 ③略

## 郷土を知るための施設

千光寺	砺波市芹谷 1111	0763 (37) 0072
となみ散居村ミュージアム	砺波市太郎丸 80	0763 (34) 7180
砺波郷土資料館	砺波市花園町 1-78	0763 (32) 2339
砺波市埋蔵文化財センター	砺波市頼成 566	0763 (37) 1303
砺波民具展示室	砺波市頼成 566	
砺波市出町子供歌舞伎曳山会館	砺波市出町中央 5-4	0763 (32) 7075
松村外次郎記念庄川美術館	砺波市庄川町金屋 1066	0763 (82) 3373
砺波市美術館	砺波市高道 145-1	0763 (32) 1001
庄川水資料館	砺波市庄川町金屋 1100	0763 (82) 4316
チューリップ四季彩館	砺波市中村 100-1	0763 (33) 7716

## 参考文献

北日本新聞社	1989.6	『写真集 富山県 100 年』
庄川町老人クラブ連合会	1995.7	『写真集 ふるさとのあゆみ・庄川町』
庄川町教育センター	2002.2	『郷土学習の手引き 庄川』
砺波市	2021.3	『統計となみ』（令和2年度版）
砺波市教育センター	2019.3	『学習の手引き 郷土砺波』
砺波市史編纂委員会	1991.3	『砺波市史 資料編1 原始・古代、考古』
砺波市教育委員会	2007.3	『久泉遺跡発掘調査報告Ⅲ』
富山市科学博物館	2007.7	『とやま・サイエンスガイド』

## 資料協力

北日本新聞社 倶利伽羅不動尊 帝国書院編集部 砺波郷土資料館  
砺波散村地域研究所 砺波農地林務センター 砺波市役所 砺波図書館  
富山県教育委員会 富山県埋蔵文化財センター 富山市科学博物館  
農林水産省北陸農政局西北陸土地改良調査管理事務所

P.1 に掲載の空中写真は、農林水産省北陸農政局西北陸土地改良調査管理事務所の撮影（平成 14 年 9 月 1 日）を、許可を得て複製したものである。

## 学習の手引き「郷土砺波」編集委員

編集委員長	西村 敬洋（庄東小教頭）
編集委員	山本 章太（出町中教諭）
	畑 史香（庄西中教諭）
執筆協力	安カ川恵子（砺波郷土資料館）
	野原 大輔（砺波市教育委員会生涯学習・スポーツ課）
	砺波市教育センター
所長	竹田 新
主幹・指導主事	宮井 剛

中学校 社会科副読本

## 学習の手引き 郷土砺波

発行日 令和4年4月 第7版発行

編集・発行 砺波市教育センター

印刷・製本 アカマツ印刷



上空から見た増山城



氏名	
----	--